

平成29年度EPA看護師・介護福祉士候補者受け入説明会

受入れ事例報告

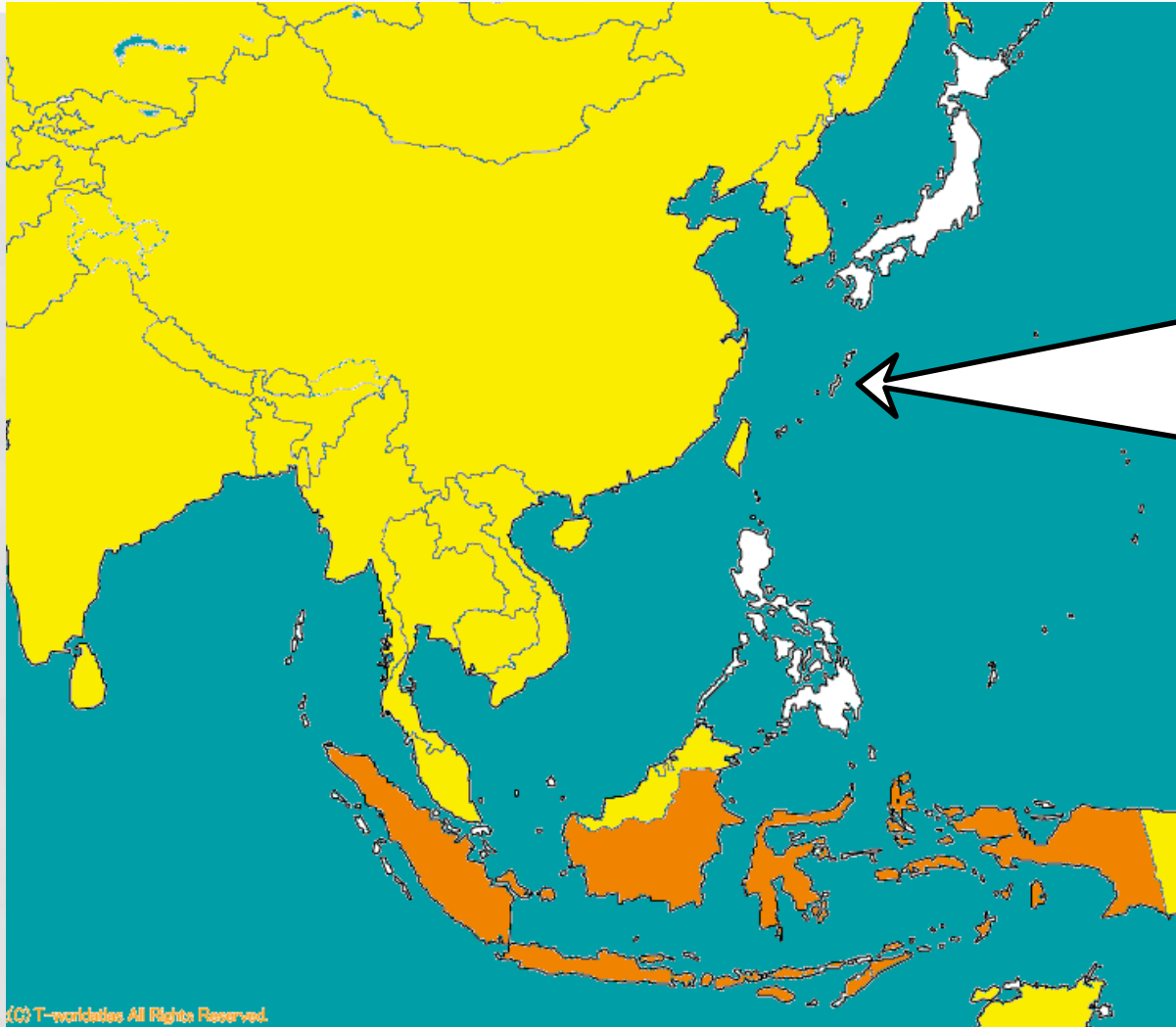
看護師国家試験合格に向けての取り組み



医療法人卯の会 新垣病院
看護部長 塚田由美子

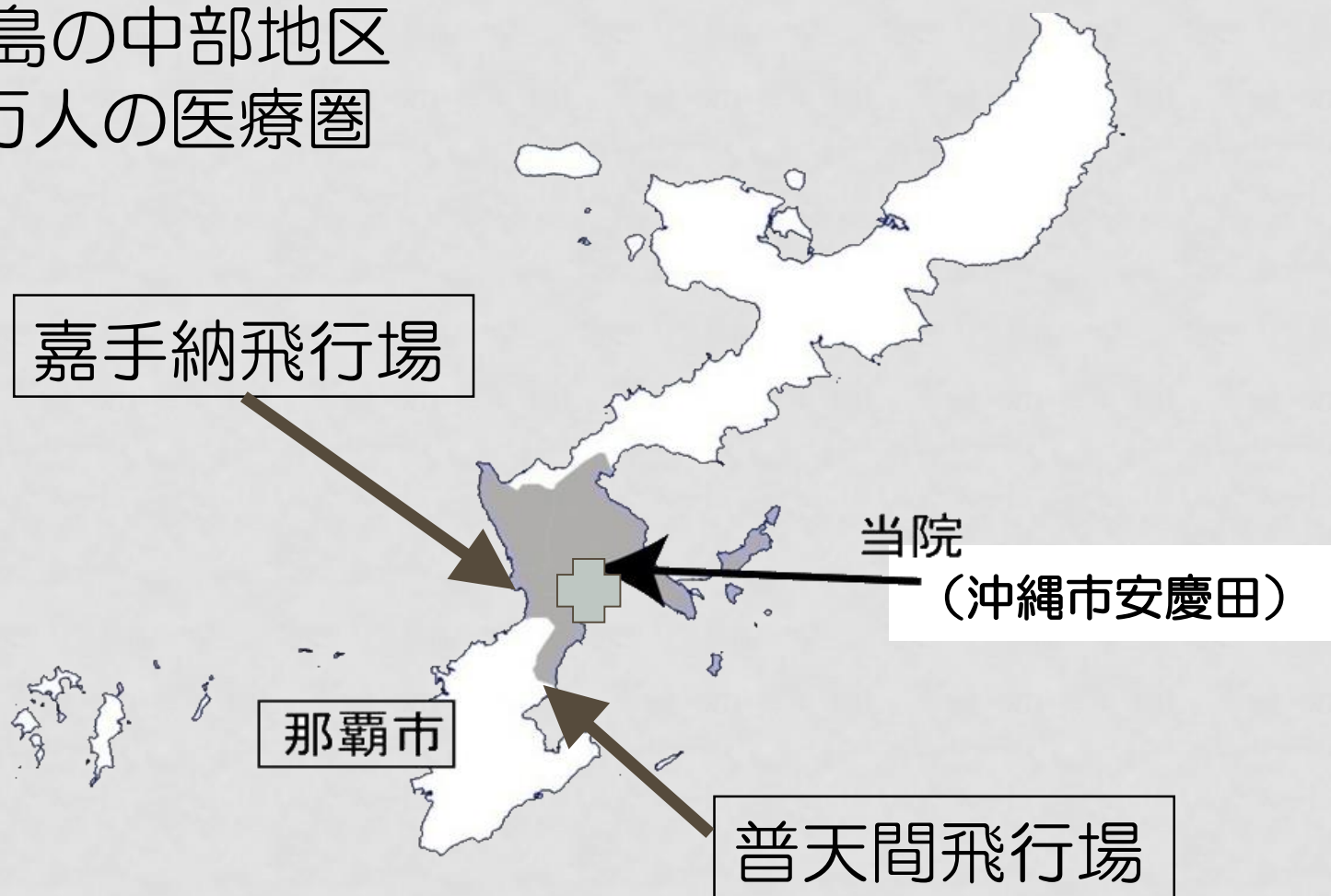
平成28年4月21日(木)

日本と沖縄、フィリピンとインドネシア



新垣病院のある場所

沖縄本島の中部地区
約60万人の医療圏



“生きる力”をサポートします 🐰



医療法人卯の会 新垣病院の紹介

- » 開設：昭和45年
- » 精神科単科
- » 病床数：273床
- » 職員数：316名
 - » 平成28年3月現在

精神科単科	273床
精神科救急	46床
精神療養	120床
精神科一般	57床
認知症病棟	50床
精神科デイケア	100人
精神科デイナイトケア	50人
認知症デイケア	25人
自立訓練事業所	32人
就労支援事業所	
グループホーム	20人

新垣病院の特徴

離島（陸続きで無い）での、地域精神科医療全般を担う

- 精神科救急・急性期から、慢性期医療療養
- 認知症高齢者医療と地域ケア
- 精神科専門多職種によるチーム医療
- 各専門職の教育病院としての役割
- アメリカ軍が駐留し、英語圏の人から精神科医療の要請がある

EPA看護師候補者受け入れの目的

- 地域柄、英語による医療提供の潜在的ニーズに対応したい
- 当院職員への良い刺激
 - 学習／仕事への態度
 - 大きく言えば“世界観”など
- 日本も国際化が進むと考えられ、その素地作り
- 国際貢献
- 風土的に東南アジア（特にフィリピン）に馴染みがある
（琉球料理は、豚を食べつくす文化）

受け入れの経過と現状

- | | |
|----------|-----------------------|
| 平成23年11月 | フィリピン人候補者2名 受け入れ(第1陣) |
| 平成25年3月 | 候補者2名 准看護師認定試験合格 |
| 平成26年1月 | 候補者2名 日本語能力検定N3合格 |
| 平成26年3月 | 候補者1名 看護師国家試験合格 |
| 平成26年12月 | 候補者2名 受け入れ(第2陣) |
| 平成27年2月 | 候補者3名 国家試験受験(1名延長措置) |
| 平成27年4月 | 23年度受け入れ候補者1名帰国 |
| 平成28年2月 | 候補者2名 国家試験受験 |

支援の概要

- 雇用要件と業務：看護助手として雇用
- 生活支援：住居の手配および生活必需品の準備を当院が行い、各々は単身で生活
- 学習環境：施設内に専用の研修室を整備
- 社会文化理解：＊盆・正月などの機会に職員宅へ招き、沖縄独特の文化を体験
＊病院行事(忘年会・ビーチパーティーなど)に参加
＊職員と一緒に初詣を体験

学習支援

- 国試対策：学習支援者である病棟看護師が担当
- 日本語学習：現役の日本語学校教師に依頼

学習時間

- 国試対策

5～10月：午後2～3時間程度，週1～3回実施

11～12月：午後を学習時間として設定(金曜日は終日)

1月～2月：終日学習時間として設定

- 日本語学習

週1～2回，1回2時間を学習時間として設定

5月～翌年1月まで実施

国家試験対策の実際

- 過去問題中心に講義を行い，不正解した問題については，知識不足が原因でなのか，日本語能力が原因なのかを分析・解説し，2015年からは，過去問題を英語翻訳し，英語による解説も行った。

日本語学習の実際

- 日本語能力検定N2～N3 レベルの取得を目指した講義と国試問題を日本語教師独自で編集した教材を用いた講義を行った。

模擬試験について

- 年間で合計7回，定期的に実施
- 模擬試験の全結果を集計し，グラフ化
- EPA候補者とともに問題点の明確化と共有およびモチベーションの維持・向上を図った。

EPA候補者の成績の推移から

必修問題に関しては、受験回数とともに、順調に成績が上昇している一方で、総合問題に関しては、各EPA候補者によって、成績の上昇にバラつきがあり、とりわけ、日本語能力が低い候補者については、成績の上昇率が低いことがわかった。

効果的な学習支援について

- 状況設定問題は患者の背景や病態などを説明する長文形式であるため、日本語能力の程度の差が得点に個人差を生じさせたと考えられる。
- このことから、国家試験の合否を決める上で重要な学習支援の方法は、より日本語学習の充実を図ること、模擬テスト結果を集計・分析し、問題点や課題を共有していくことなどであると考えられる。

実際の学習指導について

指導者として心掛けたこと

- プライドを傷つけないで、できるだけ誉めて育てる
- 勉強できる環境を整える
- 他のスタッフからの支援、職場環境調整
- 苦手分野の把握を一緒に行う
- 指導者も英語を勉強し、できるだけ理解してもらえよう努力した

各施設のEPA担当者様へのアドバイス

当病院における効果的だった対策

- 成績の可視化(グラフ化)
- 定期的に実施した模擬(有料)テスト
- 日本語習得(日本語講師)と
- 看護師国家試験(学習担当者)の二つの側面からのサポート体制

各施設のEPA担当者様へのアドバイス

ミスの原因の3分類

1. 知識不足によるミス

⇒国家試験学習担当者

2. 日本語読み取りによるミス

⇒日本語講師

3. 単純ミス

病院スタッフからの声

- 外国から日本に来て、なれない環境の中、難しい日本語や漢字を一生懸命勉強して見事試験に合格して、すごいと思う。
- 毎日勉強している姿をみて、自分も頑張ろうと励まされた。
- 他国の文化にも触れて勉強になった。
- 患者さんへの対応などがとてもやさしくて、見習うべきところがある。
- 難しい漢字や日本語を読むことができ、びっくりする。
- フィリピンにいる家族のために仕送りを欠かさずしていて、感心する。
- 日本語の通じない外国人(英語圏)が入院になるときは、ジアンさんが通訳してくれるので助かっている。